立教大学学術推進特別重点資金（立教ＳＦＲ）
在外研究
２０１５年度研究成果報告書

研究代表者	所属部局･職		氏　名	
	現代心理学部・教授		小口　孝司　　印	
研究課題	海外におけるメンタルヘルスツーリズムの探究			
全研修期間	2015 年 7 月 31 日　～　2015 年　10 月 8 日（ 70 日間）			
経　　費	年度	SFR 申請額	所属学部からの補助額	SFR 助成額
	2014 年度	円	円	円
	2015 年度	909,064 円	0 円	909,064 円
主な滞在国及び研究機関名	国　名	研究機関名		
	オーストラリア	**ジェームズ・クック大学**		

研究成果の概要（図・グラフは使用しないこと）

□ 研究の目的

心理学の観点からの観光研究、特にメンタルヘルスツーリズムに関する知見をさらに深めることが主たる目的であった。

□ 研究の成果

日本とは文化的な背景が異なるオースラリアにおいて、メンタルヘルスツーリズムの必要性の違いと、メンタルヘルスツーリズムに類したものがどのように展開されているのかを実際に視察して、メンタルヘルスツーリズムに関する洞察を深めた。同時に、日本以外の国におけるメンタルヘルスツーリズムに関する研究について検討した。また受け入れ教員である Pearce 教授との共同研究も模索した。

① メンタルヘルスツーリズムの必要性

オーストラリアにおいてもメンタルヘルスは課題となっているが、日本とは大きく異なっていた。まず、人々のメンタルヘルスに対する態度は、日本のように閉鎖的、あるいは忌避しようとするものではなく、積極的に話題にするものである点が大きく異なっていた。メンタルヘルスを対象とする TV 番組が放映され、その CM が頻繁に流されるという点において、大きく異なっていた。

さらに住環境においても、郊外の大学であったせいもあるが、積極的に自然環境を利用し、自然に親しむ環境を創出して、そこでの活動を謳歌している様子がよく伺えた。仕事においても、郊外、地方の大学であったためもあろうが、教員、職員とも５時半を超えるとほとんどキャンパスにいないような状況であった。(その後のアメリカの大学における経験では、そのようなことはなかったが。)

総括すると、日々の生活を謳歌し、自然との触れ合いを積極的にとり、メンタルヘルスに言及することを極力タブー視しない社会風土においては、メンタルヘルスツーリズムの実践が既に日々行われているとも言えた。社会文化的際によってメンタルヘルスツーリズムの必要性は大きく異なっていた。

研究成果の概要（つづき）

そのため、メンタルヘルスツーリズムは主として、東アジア圏の大都市地域において特に必要とされるものであり、通文化的な現象、対象ではないことが確認されたため、従前に予想していたものとは異なったため、新たな研究計画を策定する必要が生じた。

② 受け入れ教員とのコラボレーション

在外研究の受入大学の教員は、Philippe Pearce 教授であった。観光研究において心理学の方法論を用いた研究者としては、彼は自他ともに認める世界 NO.1 の学者である。受入大学は World Tourism Organization からオーストラリアにおける観光学の最高峰として認証されている James Cook University であった。

報告者は現在、科学研究費（基盤（B)、2014-2017）を得て、「メンタルヘスツーリズムの展開」というテーマを研究中であるが、それは内外の研究者からの知見を得ることも一つの目的となっているものの、具体的な連携を図り研究を進めていく計画とはなっていない。

そこで今後さらなる科研費（基盤（A）や基盤（B)）などを獲得していくためには、海外の研究者の連携が欠かせない。Pearce 教授はそうした連携をとるに最もふさわしい研究者であるため、今回長期にわたり彼の大学を訪れ共同研究を行い、今後の基礎とした。

Pearce 教授は報告者の主たる研究動向も踏まえた上で、savoring（享受すること）を一つのテーマとして挙げて、在外研究以降も共同研究を続けている。セイバーリングとは、狭義には飲食を堪能することであるが、広義には活動を楽しむことを指す。このセイバーリング傾向が高いと、旅行経験をしたときに、非常に大きな恩恵を受けることができ、リピーターとなるが、その傾向が低いと、あまり恩恵は得られず、リピーターともならない。敷衍して考えると、セイバーリングの高い人は、メンタルヘルスツーリズムにおいても十分な効果が期待できるが、それが低い人は十分な効果が期待できない。

このセイバーリングについての基礎研究を、ヨーロッパ、中国、日本の比較研究として、現在進めている。今年８月の国際学会において、結果の一部を発表し、順次学会誌などへの投稿を進める予定である。

キーワード（研究内容をよく表しているものを５項目で記入）

〔心理学〕〔観光学〕〔メンタルヘルスツーリズム〕〔セイバーリング〕〔　　〕

研究発表（研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。）

①雑誌論文（著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ）
②図書（著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数）
③シンポジウム・公開講演会等の開催（会名、開催日、開催場所）
④その他（学会発表、研究報告書の印刷等）

① 雑誌論文

小口孝司、メンタルヘルスツーリズム導入の意義と効果、観光研究、２７巻、１号、2015 年、8-12.

※この（様式２）に記入の、成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書（Ａ４縦型横書き１枚・自由様式）を添付すること。